

I 自己評価

1	学校教育目標	「至誠明朗」の校訓を体し、知・徳・体の調和のとれた創造的・人間性豊かな実践力のある地域社会人の育成を図る。				
2	評価する領域・分野	生徒指導部				
3	現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・アンケートより、「学校はいじめや差別を許さず、厳しく対応している」の項目において、ポイントが低い。				
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1)生命を尊重する心、道徳心を持った豊かな人間性、人としての基本的な倫理観や規範意識の育成 (2)部活動の推進 (3)関係機関や地域と連携した生徒指導の推進				
5	重点目標を達成するための校内組織体制	生徒指導部会、特別生徒指導委員会、学年会、教科担任会議、サポート会議、いじめ防止等対策委員会、人権委員会				
6	目標達成のための具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標				
	(1)「いじめ防止等対策委員会」の内容の充実。あらゆる教育活動の場面で、「いじめは絶対許さない」姿勢を生徒に訴えかける。いじめアンケートの結果等を基に、解決に向けて、積極的に生徒に関わる。 (2)部活動を通じ基本的な生活習慣や挨拶活動を徹底させ、帰属意識を持たせることで自己有用感を持たせる。 (3)PTAと協力し朝の交通安全指導や挨拶活動を実施する。	(1)いじめ防止等対策基本方針 いじめ防止等対策年間計画 いじめ防止等対策教員研修会 いじめ防止等啓発活動 (授業、HR活動、行事、部活動、集会等) (2)部活動実績、部活動による清掃活動・挨拶運動 (3)交通事故発生件数、MSL報告書 美濃地区「高校生による交通安全推進大会」の企画・運営				
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価			
	(1)いじめ防止等対策委員会、いじめ防止等教員研修、心理検査の活用など (2)部活動リーダー研修会、部顧問会議 (3)生徒指導講話、交通安全講話、啓発活動	(1)充実した内容となり、教員の意識も高まってきたか。 (2)部活動の実績も上がり、帰属意識も増してきたか。部単位での善行が増えてきたか。 (3)PTAとの協力体制が整いつつあるか。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D			
11	成果・課題	○年間3回実施されるいじめアンケートでは、「現在も続いている」の回答がほぼ見られなかった。来年度以降も「いじめは絶対許さない」ことを訴え、学校の姿勢を示し、根絶を目指したい。今年度からタブレットでの実施とした。 ●交通事故については、自損の案件が多かった。さらなる啓発を行いたい。 ○今年度も、長期欠席する生徒に対する指導について、HR担任、教育相談、部活動顧問等の関係職員で情報共有するなど、連携して指導することができた。 ○昨年に続き、コロナ禍において、実施することができない行事もあったが、情報モラル講演会、命の大切さを学ぶ教室、薬物乱用講座など、リモートにて実施することができた。また、MSL活動も再開することができた。 ○ツブブロックなど、校則の見直しを行った初めての年となったが、大きなトラブルもなく、運用することができた。			総合評価 A (B) C D	
12	来年度に向けての改善方策案	・校則の見直しについて、時代に合った内容にすべく、さらに生徒会と共に検討を進めていきたい。また、性の多様性に配慮した制服の在り方についても考えたい。 ・「いじめ防止」、「情報モラルの徹底」、「交通事故の減少」などの今年度の課題解決に向けて、起こさないための事前の予防的な指導を行う。さらには、生徒の良さを日常の活動から発見・自覚させ引き伸ばしていく開発的指導を心がけたい。 ・教育相談、いじめ対策について、保護者に理解してもらえる工夫を更に行う。 ・発達障害やそれと疑われる生徒に対して、保護者の協力を得ながら、個に応じた配慮を全職員が共通理解し、指導にあたる。 ・体育祭、文化祭などの生徒会行事の内容、取り組みなど、さらなる充実を目指したい。				

II 学校関係者評価
【意見・要望・評価等】

実施年月日 令和4年2月16日

- ・「いじめを許さない関商工」が続くことを願っている。引き続き、生徒・保護者に対して根気よく、親切丁寧に寄り添って欲しい。
- ・交通事故・暴力・犯罪などに対し、専門機関と連携を取りながら指導して欲しい。